イデックスオイルレポート　~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

●第1週、7/3のWTI原油は、先週比1.48ドル高の67ドルとなった。トランプ米大統領が自身のSNSで、ベトナムと貿易協定の大枠で合意したと発表した。しかし、欧州連合（EU）や日本などとの通商交渉がまだ決着していないことに着目した売りが台頭。また、需要減退懸念が根強い一方で、石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が8月以降も増産を継続する方針との見方が投資家心理を圧迫した。
●第2週、7/11のWTI原油は、先週比1.45ドル高の68.45ドルとなった。国際エネルギー機関（IEA）は11日、旅行や発電向けの利用で夏の製油所の稼働がピークを迎えることに伴う需要を背景に、世界の石油市場は見かけよりも逼迫（ひっぱく）している可能性があるとの見方を示した。
●第3週、7/18のWTI原油は、先週比1.11ドル安の67.34ドルとなった。欧州連合（EU）は18日、ウクライナ侵攻を続けるロシアに対し、エネルギー分野を中心に新たな制裁を科すことで合意。具体的には、同国産原油の取引価格上限の引き下げや石油製品の一部輸入禁止などを盛り込んだ。これが買い手掛かりとなり、朝方にかけては堅調に推移。
●第4週、7/25のWTI原油は、先週比2.18ドル安の65.16ドルとなった。エネルギー消費大国である米中の低調な経済指標を受けて需給緩和懸念が広がる中、原油売りが先行した。南米ベネズエラ産石油の供給を巡る思惑もなお相場の重し。複数のメディアは前日、トランプ米政権が米石油大手シェブロンによるベネズエラでの操業を再び許可する方向で検討していると伝えた。この報を受け、市場関係者の間からは、ベネズエラで石油生産が再開されれば、同国産石油の供給が日量20万バレル増加するとの観測も浮上している。

	7月平均	WTI原油	67.16ドル	前月比	-0.17ドル	為替　1ドル	147.74円	前月差	2.20円

日付	補助金		変動幅		変動幅
7/1～7/2	13.4 / 6.7	出光興産	+6.5	ENEOS	+6.5
7/3～7/9	10 / 5		-7.0		-7.0
7/10～7/16	10 / 5		+0.5		+0.5
7/17～7/23	11.3/5.6		+3.0		+3.0
7/24～7/30	10.2/5.1		±0		±0
7/31	10 / 5		±0		±0

※補助金については、左 ガソリン・軽油/右 灯油・重油

【単位：円/KL】

		0.5HPP	ENEOS　LS舶用燃料油基準価格
メニュー価格推移	2025年4-6月C重油決定価格	83,930	85,930【 83,930(メニュー)+　2,000(プレミアム)】
	2025年7-9月C重油仮価格	82,760	85,190【 82,760(メニュー)+　2,430(プレミアム)】
	2025年7-9月C重油決定価格		
	決定価格 前期比		

【単位：円/KL】

		適合C重油	A重油
内航燃料油価格推移	2025年4-6月決定価格	91,330	95,100
	2025年7-9月仮価格	90,590	
	2025年7-9月決定価格		
	決定価格 前期比		

	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円／kl	通関CIF ドル／bbl	為替レート 円／ドル	原油CIF価格 前月比
CIF価格推移	25/6	9桁速報	63,602	70.21	144.02	-4,559
	25/7	最終予測	64,835	70.96	145.27	1,233
	25/8	展望	65,269	73.08	142.00	434
	25/9	展望	64,724	73.50	140.00	-545

【次世代エネルギー】〈 FDK、水素ためる量2割増の粉末合金　燃料電池向け 〉

電池製造のFDKは17日、水素をためられる粉末状の合金で貯蔵量を2割増やした新製品を開発したと発表した。常温での保存が難しいとされる水素を効率よく貯蔵できるため、燃料電池や水素貯蔵タンクでの活用を見込む。
開発したのは「AB2型水素吸蔵合金」。7月からサンプル提供を始め、10月以降に量産する。FDKは、水素をためる「水素吸蔵合金」という粉末を部材に使ったニッケル水素電池を生産している。自社のニッケル水素電池向けに使う粉末を、燃料電池などに使う水素貯蔵向けに応用した。
水素吸蔵合金は同じ量の水素をためる場合、体積が液体で保存する際の半分、高圧のガス状で保存する際の7分の1で済む。水素発電に使うタンクでは多くの貯蔵量が求められるため、水素を効率よくためられる技術に注目が集まっているという。
2026年度で30トンの出荷を目標としている。燃料電池のほか、水素ステーションや燃料電池で動く小型モビリティー向けタンクでの採用も見込む。

出典：日経電子版 https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC04C4D0U5A400C2000000/

次月価格変動要因】

●需要：
・米国経済については随所に関税影響が出始めている。
先ず6月の雇用統計は雇用増、失業率は前月・市場予想を下回り、表面上は良好な結果。ただ、中身は医療・政府を除いた雇用の伸びは前月から失速（主に政府部門が牽引しており、消費関連業種は鈍化）、失業率の低下も一部は労働参加率の低下が寄与（強硬な移民政策が影響？）しており、全体としては軟化傾向に変わりなく。
・欧州経済はやや弱含み
ECBフォーラムではラガルド総裁より「物価は目標に到達した」との発言があり、当初から7月は様子見となる見通しが強かった。そして24日のECBにおいては想定通り政策金利の据え置きが発表された次第。
・中国景気は強気にみる論客も足元は増えているがV字回復は見込めない。
第二四半期GDPは＋5.2%と、第一四半期から減速も底堅く推移。政策効果により消費が底上げされた他、米国向け以外の輸出が増えた事で成長を下支えした。6月の生産も好調で、特に電気機械と自動車が牽引。不動産は変わらず調整局面が継続しており、1－6月累計の開発投資は10%を超えるマイナス成長。
●供給：
OPECの次回会合は8/3予定。8月は当初計画の4倍に相当する548KBDの増産となっているが、9月も同様に4倍増で増産を行い、これを以て有志8か国による2.2MBDの自主減産は解消される見通し。

＜1ヶ月価格見通し＞　（単位：US/bbl）

	Brent	WTI
High	76	73
Average	70	67
Low	65	62

＜3ヶ月価格見通し＞　（単位：US/bbl）

	Brent	WTI
High	77	74
Average	71	68
Low	66	63

日付	国	8月経済指標カレンダー	日付	国	8月経済指標カレンダー
1	ユーロ	7月消費者物価指数	15	米国	7月小売売上高
1	米国	7月非農業部門雇用者数変化	20	ユーロ	7月消費者物価指数
1	米国	7月失業率	20	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
1	米国	7月平均時給	22	日本	7月全国消費者物価指数
1	米国	7月ISM製造業景況指数	25	米国	7月新築住宅販売件数
5	日本	日銀・金融政策決定会合議事要旨	28	米国	4-6月期四半期実質国内総生産
5	米国	7月ISM非製造業景況指数	29	米国	7月個人消費支出
12	米国	7月消費者物価指数			
14	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産			
15	日本	4-6月期四半期実質国内総生産			

© 2025 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.